

# あいさい 通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

## 尾張津島天王祭と千鳥



酔っぱらってふらふらと歩くことを千鳥足と言いますが、千鳥という鳥の歩き方に由来します。千鳥は、多数が群れる「千の鳥」の意とも、また「チ」は鳴き声に由来するともいい、野山、特に水辺に群れる小鳥たちの総称であり、チドリという名前の鳥はいません。千鳥の仲間は昔から文学などにも多く取り上げられていますが、脚の指が前三本で後がないため特徴ある歩き方をします。

その千鳥の仲間は、愛西市を流れる木曾川や周辺の田園地帯にたくさん生息しています。日本で見られるチドリ科に分類される鳥は、コチドリ（写真：全長約 16 cm）、オオチドリ、シロチドリなど 12 種で、シロチドリは 1972 年に三重県の鳥に指定され、伊勢湾沿岸の砂浜でよく見かける鳥でしたが、数を減らしているようです。スズメほどの大きさ（全長約 15 cm）の地味な色彩の鳥なので、日常的に気付きにくいかもしれません。一方、近種にケリという鳥がいます。コチドリより大型（全長約 36 cm）で、初夏に繁殖期を迎え、巣を水田内や畦などの地面に作り、テリトリー（縄張り）にカラスや人間が近付くと、ケリケリッと激しく鳴きながら威嚇して追い払います。そのため、ご存知の方も多いでしょう。

さて、7月21日（土）、愛西市の佐織公民館で教育委員会が主催する狂言『千鳥』の公演があります。狂言は、能楽と同様に猿楽から発展した日本の伝統芸能で、猿楽の滑稽味を洗練させた笑劇（コメディ）と言えます。狂言は、伝統芸能というだけで敷居が高く観る機会も少ないのですが、プロの演技を見るとその滑稽な言い回しや仕草を腹の底から笑えます。

特に『千鳥』は、千鳥がたくさんいるご当地・尾張津島天王祭での出来事を題材としていますので身近に感じられるでしょう。ただ、残念ながら今回の公演会の整理券配布は完了しているようです。しかし、今年も「尾張津島天王祭（7月28・29日）」へ行けば、千鳥足で歩く観光客をたくさん見ることができるでしょう。

# 尾張津島天王祭と能楽



今年も7月28・29日に「尾張津島天王祭」が開催されます。尾張津島天王祭というと、たくさんの提灯をつけた宵祭の巻藁舟が有名ですが、朝祭には、屋台に二体の人形を飾って装いを変えた車楽舟（だんじりふね）が登場します。

その屋台に乗せられた人形は、犬山祭や亀崎祭のようなカラクリ人形ではなく、能楽の衣装をまとった等身大の藁人形です。1頁で紹介しましたように、能楽も狂言と同様に猿楽から発展し、織田

信長や豊臣秀吉の時代、彼らの好みによって大成した日本の伝統芸能であり、室町時代には祭事として能楽が神前に奉納されていた名残とも言え、江戸時代に発展したカラクリ人形より古いため、尾張津島天王祭の古さの証拠となります。

乗せられる人形の名前は、能楽の演目を表し、人形の姿は、その演者である主役（シテ）と脇役（ワキ）に相当しています。演目は毎年クジによって決められ、市江車は7月15日（置物定め）にクジが引かれます。津島5車は、正月に決められており、今年は『高砂』『兼平』『熊野』『百萬』『昭君』となっています。

## 郡上八幡・防火も備えた町並み



「あいさいボランティアガイドの会」では、会員30人が先進観光地視察として6月8日（金）、郡上踊りで有名な城下町・郡上市八幡町にある古い町並みを訪問しました。当日は「郡上八幡まちなみ観光案内人」のお二人に郡上八幡博覧館と古い町並みエリアを中心に案内していただきました。

郡上八幡の古い町並みは、京都などと同じように家々が密着していますが、各民家の前には消火用のバケツがぶら下がっている様子がみられました。密集した町屋で火事が起こるとすぐに近隣へ火が回ってしまいます。そのため、初期消火ができるように設置されており、防災意識を高める役割にもなっているそうです。案内人のユーモアを交えた話し方も素晴らしく、町並みに信号機がないなど美しい景観保存が観光資源となっているお手本を学ぶことができました。

## 皇太子殿下、船頭平閘門ご訪問

5月21日（月）午後、愛西市は大騒ぎになりました。皇太子殿下が船頭平閘門をご訪問されたのです。

宮内庁のホームページを拝見させていただくと、殿下は世界水フォーラムに毎回ご出席され、水（河川交通、河川からの利水など）の研究をされてみえます。今回は国の重要文化財に指定されている愛西市立田町の船頭平閘門への私的なご訪問でした。

短時間ではありましたが、船頭平閘門は一般者立ち入り禁止となり、弥富インターから立田大橋を経て船頭平閘門横にある木曾川文庫まで、沿道にはたくさんの市民が集まり歓迎しました。

今回のご訪問を機に、船頭平閘門にある説明板（写真）が新しくなりました。皇太子殿下もご関心を持たれた閘門を、みなさんも是非見学下さい。



## 愛西ワンダーワンド探検 下見会

「あいさいボランティアガイドの会」では、6月15日（金）午後1時より「愛西ワンダーワンド（湾処）探検下見会」を開催しました。

この日は、今年名古屋港で最も潮位が低くなると予測された日であり、木曾川の水位も低くなって、湾処は密林の干潟となり、また、河川敷は大きく広がって自然を観察しやすくなりました。天気予報では雨となっていましたが、探検時には雨も上がり、また、大河木曾川が増水することもなく、木曾川河川敷に沈む江戸時代の堤防跡の全貌が現れ、素晴らしい風景を楽しむことが出来ました。

今回は、報道関係者、国土交通省木曾川下流河川事務所の職員、愛西市の職員も参加して、背割堤からのケレップ水制・湾処地形、ケレップ水制沿いに河川敷を歩いて湾処と幻の堤防を見学しました。参加者が変わると視点も変わり、刻々と変化していく景観の不思議（ワンダー）にあらためて感動させられました。

「あいさいボランティアガイドの会」では、幻の堤防跡の全貌が見られる今年のラストチャンスとなる7月13日（金）午後1時より「愛西ワンダーワンド（湾処）探検会」を開催します。開催要項は愛西市観光協会事務局（電話：0567-55-9993）へお問合せ下さい。



## ～ 愛西市周辺の観光 今後の予定 ～

- 7月13日(金) 愛西ワンダーワンド(湾処)探検会 於:木曾川背割堤 他  
7月14日(土)・15日(日) 蓮見の会 於:森川花はす田  
7月28日(土) 尾張津島天王祭 試楽 於:西保町 星大明社 他  
7月29日(日) 尾張津島天王祭 朝祭 於:津島市 天王川公園 他  
8月3日(金) 水生生物による木曾川の水質調査 於:馬飼大橋下(羽島市)  
8月12日(日)、8月26日(日) 漁業体験 於:三和港周辺の木曾川  
8月26日(日)～ 勝軍地蔵尊御開帳 於:西條町

### V G 8月定例会の予定

集合時間:8月19日(日)9時～ 集合場所:文化会館  
内 容:2018年の事業について

- ◇6月定例会(6月17日(日)9時～11時、於:愛西市文化会館、24人出席)議事録
- 1) 開会:新規会員に委嘱状をお渡しました。
  - 2) 協議事項
    - ①「蓮見の会」「漁業体験」(愛西市観光協会主催)への協力体制を確認しました。
    - ②「祭りを学ぶIV(愛西市教育委員会主催)」「船頭平閘門舟遊び(木曾川文化研究会主催)」について対応を協議しました。
    - ③「愛西市フィールドワーク(愛西市教育委員会主催)」について内容を説明しました。
    - ④「水生生物による木曾川の水質検査」について内容を説明し対応を協議しました。
  - 3) 報告事項
    - ①「郡上市八幡町へのバス研修」「八開中学校 校外学習」について結果を報告しました。
    - ②「愛西ワンダーワンド(湾処)探検下見会」について、結果を報告し、今後の予定を案内しました。
  - 4) その他
    - ①7月定例会は蓮見の会と重なるため中止、次回は8月19日(日)と決定。
    - ②小説『葵の残葉』について案内しました。
  - 5) 分科会
    - ①篠辺氏作成資料を元に、市江地区の歴史について勉強しました。
    - ②八開中学校校外学習で配布された1891(明治24)年測図地図を元に、八開地区の歴史を勉強しました。
    - ③川上氏作成資料「森川花はす田」を配布しました。



7月14・15日 蓮見の会 開催 於:森川花はす田